

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数 理科 ▶ 歴史 地理

お題

古代の日本の仏教の発展に、日本と中国の僧侶が果たした役割とは？

(東京大学 1993年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

7～9世紀にかけて、日本に渡ってきた朝鮮半島・中国の僧侶や、大陸に渡った日本の僧侶が果たした役割について、次の文章を参考にしながら、説明しなさい。

(1) 聖徳太子は、595年に日本にやってきて法興寺(現在の飛鳥寺)に住んだ高句麗の僧惠慈から、仏教を学んだとされる。

(2) 遣唐使とともに中国に渡った僧玄奘は、743年、多くの経典を持ち帰り、吉備真備とともに聖武天皇の下で国づくりに携わった。

(3) 中国の僧鑑真は、日本からの要望に応じ、何度も渡航に失敗しながら753年に日本に着き、多くの日本人に教えを説き、奈良に唐招提寺を開いた。

(4) 804年、最澄は中国の仏教学を学ぶために渡航した。また、同時に中国に渡った空海も、青龍寺の恵果から密教の教えを学んだ。

(5) 最澄の弟子の円仁は、838年の遣唐使とともに中国に渡り、密教の教えや中国の浄土信仰を日本に伝えた。

一族から国へ

日本に最初に仏教の教えが伝わったのは6世紀、百済や高句麗といった朝鮮半島の国々からもたらされました。最初は、天皇や天皇に近い貴族たちの間で広まり、自分の一族の繁栄を祈るために、氏を同じくする一族ごとに寺院を建てるなどして信仰されていきました。

最初は不定期だった中国・朝鮮半島との交流も、遣隋使・遣唐使といった形で日本人が中国



イラスト・瑞木匠

子たちが中国に渡り、密教や浄土信仰といった新たな教えをもたらします。

奈良時代までの仏教は、国のための教えとして重んじられたこともあり、「宗教」というよりも「学問」という位置づけに近く、僧侶などの限られた人々が研究をする対象でありました。

しかし平安京への遷都の際に、国の政治に口出しするようになった仏教寺院が桓武天皇により一掃されると、奈良時代のような仏教と国の結びつきは非常に弱くなりました。そのような中で最澄・空海らが新たな教えに基づく教団を作り、彼らの教えは国ではなく、貴族ひとりひとりの現世利益と極楽往生を願うための信仰として発展していくことになったのです。

【Z会・河原井彩】

学問から信仰へ

に定期的に訪問するようになると、日本と中国の僧侶の交流が進みました。

中でも奈良時代の聖武天皇は「仏教で国を護る」という方針を打ち出し、国をあげて仏教の信仰を強めていきました。そのころに日本にやってきた鑑真は、仏教の制度や儀礼を日本にもたらしました。

国から離れて

平安時代初期になると、最澄や空海、その弟

! 今回の教訓

最澄が築いた比叡山延暦寺は、この後の日本の仏教を支える人物を多数育てる仏教界の名門となっていきました。

また、空海が築いた高野山金剛峯寺は、極楽往生を願う貴族がこぞって詣で、競うようにして墓を置きました。高野山は今年が開創1200年。高野詣でをしながら、有名な貴族や武将の墓にお参りするのもお勧めです。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。